



株式会社パルコ
2020年2月期 (2019年度)
第2四半期
決算説明会資料
【東証一部 8251】



2019年度第2四半期決算説明サマリー

○業績

- ・ 開業物件の貢献などがあり増収。IFRS16号影響もあり事業利益、営業利益は増加
- ・ IFRS16号適用による使用権資産増の影響などにより資産合計が増加
- ・ 第2四半期実績を鑑み、連結通期業績予想を修正

○配当

- ・ 1株当たりの中間配当は、1円増配を決定。年間配当は、2円を増配し26円を予定

○開発

- ・ 2019年度は業態の異なる4物件を計画。うち3物件を上期に開業
- ・ 下期、パルコの原点「インキュベーション」「街づくり」「情報発信」が進化した渋谷パルコが登場

○店舗事業・エンタテインメント事業

- ・ 消費の多様性に対応したショップを積極的に導入した改装が売上と客数のアップに貢献
- ・ 渋谷パルコとパルコ50周年を基点にストアブランドを再訴求
- ・ カード優待や決済環境を刷新。顧客満足度を向上し、テナント向けサービスを充実
- ・ パルコ劇場をはじめ渋谷に複数拠点をオープンし、独自コンテンツのバラエティアップを計画

○関連事業

- ・ (株)ヌーヴ・エイは店舗強化と利益構造改革を推進

目次 _____

2019年度第2四半期業績／2019年度業績予想

開発事業

店舗事業・エンタテインメント事業

関連事業

2019年度第2四半期の業績概要と、2019年度の業績予想を、ご説明いたします。

第2四半期業績概要 ① 連結業績（損益計算書） 4/23

パルコの店舗事業が貢献し、事業利益、営業利益は増加

単位：百万円

	2019年 3月～8月	2018年 3月～8月	増減額	前年 同期比	計画額	増減額	計画比
営業収益	43,694	44,184	▲489	98.9%	45,800	▲2,105	95.4%
事業利益*1	5,381	5,043	338	106.7%	5,500	▲118	97.9%
営業利益	5,865	5,707	158	102.8%	6,200	▲334	94.6%
親会社の所有者に帰属 四半期利益	2,843	3,786	▲943	75.1%	3,500	▲656	81.2%
EBITDA*2	13,499	8,625	4,874	156.5%	—	—	—

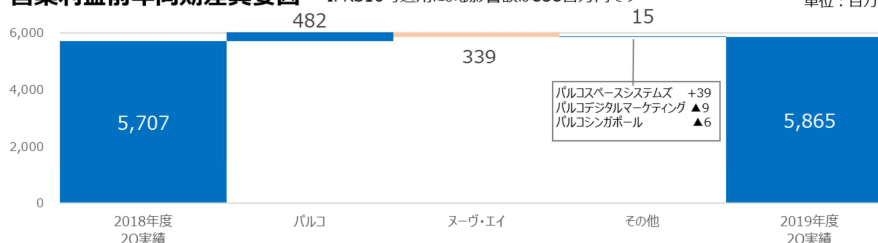
*1 事業利益は、「営業総利益 - 販売費及び一般管理費」で算出しています

*2 EBITDAは、「営業利益 + 減価償却費(連結キャッシュ・フロー計算書の減価償却費及び償却費)」で算出しています

営業利益前年同期差異要因

IFRS16号適用による影響額は838百万円です

単位：百万円



2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

2019年度第2四半期の連結業績につきましては、株式会社パルコの開業店舗やエンタテインメント事業の貢献があったものの、専門店事業の株式会社ムーヴ・エイの不振影響などにより、減収となりました。また、IFRS16号適用影響などにより、事業利益と営業利益は増益を達成したものの四半期利益では減益となりました。

営業収益は、3月にオープンした錦糸町パルコをはじめとする開業店舗やパルコのエンタテインメント事業の演劇事業の貢献があり株式会社パルコでは増収だったものの、ムーヴ・エイの不採算店舗の閉鎖による店舗数減少などにより、436億94百万円と、4億89百万円の減収となりました。

事業利益は、開業店舗の貢献や、株式会社パルコスペースシステムズの利益率の高い工事部門が好調だったほか、IFRS16号適用影響で、使用権資産の償却が増加した一方で借地借家料がその額を上回って減少したことなどにより、53億81百万円、3億38百万円の増益でした。

営業利益は、パルコやムーヴ・エイの減損損失があったものの、事業利益のプラスがカバーし58億65百万円となり、1億58百万円の増益となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、IFRS16号適用影響による支払利息の増加などがあり28億43百万円で、9億43百万円の減少となりました。
EBITDAは134億99百万円となっています。

第2四半期業績概要 ② 連結業績（財政状態計算書） 5/23

IFRS16号適用による使用権資産増の影響などにより資産合計が増加

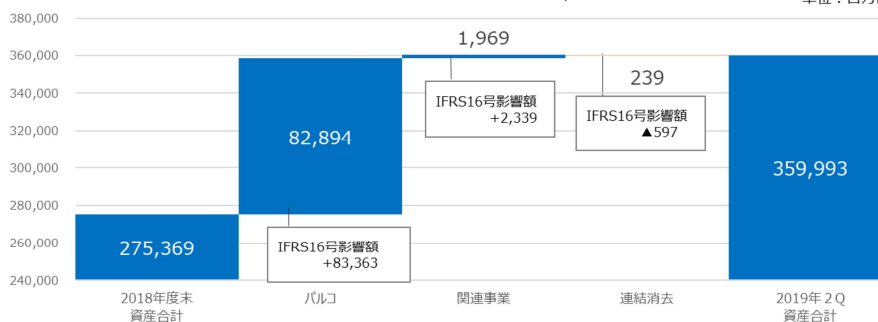
	2019年8月末	2018年度末	増減額
資産合計	359,993	275,369	84,624
資本合計	122,916	126,908	▲3,992
有利子負債（除リース負債）	57,650	61,740	▲4,090
親会社所有者帰属持分比率	34.1%	46.1%	▲11.9%

単位：百万円

資産合計前期末差異要因

IFRS16号適用による影響額は85,105百万円です

単位：百万円



2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

資産合計は、前連結会計年度末と比べて84億624百万円増加し、3,599億93百万円となりました。

IFRS16号適用に伴いオペレーティングリースなどを使用権資産として認識したことなどで約851億円増加したことが主な要因です。

IFRS16号適用影響額をのぞくと、4億81百万円の減少となります。

資本合計は1,229億16百万円で、親会社所有者帰属持分比率、すなわち自己資本比率は34.1%となっています。

有利子負債は、40億90百万円減少し、576億50百万円となりました。

第2四半期業績概要 ③ 単体業績（損益計算書） 6/23

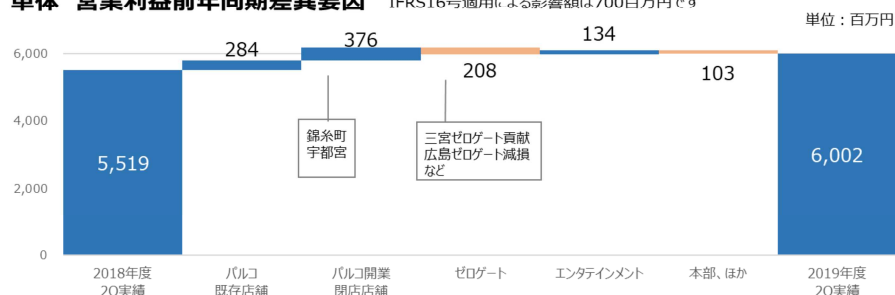
開業物件の貢献があり増収。IFRS16号影響などがあり事業利益、営業利益は増加

	2019年 3月～8月	2018年 3月～8月	増減額	前年 同期比	計画額	増減額	計画比
営業収益	28,199	27,597	601	102.2%	29,402	▲1,202	95.9%
事業利益*1	5,282	4,777	505	110.6%	5,228	54	101.0%
営業利益	6,002	5,519	482	108.7%	5,994	8	100.1%
四半期利益	3,526	3,900	▲373	90.4%	3,542	▲15	99.6%

*1 事業利益は、「営業総利益 - 販売費及び一般管理費」で算出しています

単体 営業利益前年同期差異要因

IFRS16号適用による影響額は700百万円です



2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

次に、単体の業績についてご説明いたします。

2019年度第2四半期の株式会社パルコの業績は、新規開業店舗の貢献などがあり増収となり、連結業績と同様に、IFRS16号適用影響などにより事業利益、営業利益は増益、計画も上回りました。四半期利益は支払利息が増加したことにより、減益となりました。

営業収益は、前期に開業した三宮ゼロゲートに加えて今期開業の錦糸町パルコ、川崎ゼロゲートといった拠点増加のほか、エンタテインメント事業の演劇部門の貢献などにより、281億99百万円、6億1百万円の増収となりました。

事業利益は、営業収益の増加などにより前年同期比110.6%、5億5百万円の増加となりました。

営業利益は、広島ゼロゲートの減損があったものの事業利益の増加などにより、前年同期比108.7%、4億82百万円の増益となりました。

四半期利益は、35億26百万円、前年同期比90.4%、3億73百万円の減益となりました。

第2四半期業績概要 ④ 連結 セグメント別実績、設備投資^{7/23}

単位：百万円

セグメント別実績		2019年 3月～8月	2018年 3月～8月	増減額	前年同期比
ショッピング センター事業	営業収益	25,680	25,490	190	100.7%
	セグメント利益	6,116	5,764	351	106.1%
専門店事業	営業収益	8,938	9,927	▲988	90.0%
	セグメント損失	▲342	▲3	▲339	-
総合空間事業	営業収益	9,586	9,990	▲403	96.0%
	セグメント利益	204	165	39	123.6%
その他の事業	営業収益	3,081	2,692	388	114.4%
	セグメント損失	▲82	▲198	115	-
連結	営業収益	43,694	44,184	▲489	98.9%
	セグメント利益	5,865	5,707	158	102.8%

* セグメント利益または損失は、営業利益または営業損失です

* (株)パルコのエンタテインメント事業の業績は、「その他の事業」に含まれております

* 事業間での調整があるため、各事業業績の計の数値と連結の数値は、異なります

単位：百万円

連結設備投資	2019年 3月～8月	2018年 3月～8月	増減額	前年同期比
設備投資	4,570	4,384	185	104.2%

2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

連結セグメントでは、株式会社パルコを中心とする「ショッピングセンター事業」は増収増益となりました。

「専門店事業」の株式会社ヌーヴ・エイは、新規出店店舗の貢献はありましたが、既存店舗の苦戦に加え前年同期に比べ店舗数が減少したことなどにより、減収減益となりました。

「総合空間事業」の株式会社パルコスペースシステムズは、渋谷パルコ関連工事や外部商業施設などの工事受注増があったものの、前年同期にあった大型案件の反動により、減収となりました。セグメント利益は、利益率の高い工事部門の好調により、増益となりました。

「その他の事業」では、株式会社パルコデジタルマーケティングが、ストアデジタル事業、Webコンサル事業ともに外部クライアント案件が伸長したことにより増収となりましたが、事業強化のためのコストの増加により減益となりました。パルコのエンタテインメント事業は、劇場や前期に開業した映画館の貢献などにより増収、「その他の事業」合計では増収、利益の赤字幅が縮小しました。

連結通期業績予想および配当						8/23
第2四半期実績を鑑み、連結通期業績予想を修正						
単位：百万円						
連結業績	2019年度 (2020年2月期) 新業績予想	2018年度実績 (2019年2月期)	増減額	前年比	当初予想額	増減額
営業収益	114,100	89,969	24,130	126.8%	116,200	▲2,100
事業利益	10,500	8,723	1,776	120.4%	10,500	-
営業利益	12,500	5,425	7,074	230.4%	12,700	▲200
親会社の所有者に帰属する 当期利益	6,600	3,370	3,229	195.8%	7,100	▲500
* 営業収益には渋谷再開発事業における保留床売却による一時的な増加を含み、同額を営業原価として見込んでいます						
1株当たりの中間配当は当社予定通り1円増配を決定						
1株当たりの中間配当は、2018年度中間配当から1円増配し13円を決定 年間配当は、パルコ50周年記念配当として2円を増配し、26円を予定						
2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料						

2019年度の通期業績予想につきましては、連結通期営業収益の予想を1,141億円、営業利益は125億円、当期利益を66億円に修正いたしますが、事業利益は期首予想通りの105億円に据え置きます。

第2四半期の実績を踏まえ、通期業績予想を修正しますが、下期、11月に開業する渋谷パルコの貢献を見込むほか、ヌーヴ・エイの店舗強化と利益構造改革を推進してまいります。

配当につきましては、予定通り年間でパルコ50周年記念配当2円の増配を計画しております。中間配当は2018年度中間配当から1円増配の13円を決定、年間では26円を予定しています。

目次 _____

2019年度第2四半期業績／2019年度業績予想

開発事業

店舗事業・エンタテインメント事業

関連事業

ここからは、開発事業について、ご説明いたします。



2019年度は、業態の異なる4つの物件を計画しており、うち3つの物件をこの上期に開業しました。
11月には新生渋谷パルコの開業を控えています。
また、2021年の春に大丸心齋橋店北館内への出店を予定しています。

2019年10月8日追記：
大丸心齋橋店北館内の開業を当初の2021年春予定から2020年秋予定に変更しました。

錦糸町パルコを2019年3月開業し、順調にスタート

- ・映画館などアミューズメント施設を擁する複合ビルへの出店によるシナジーを最大限に発揮
- ・ショッピング以外の来店目的も高めるライフサポートテナントを充実し地域のインフラとしても貢献
- ・すみだエリアの顧客ニーズをとらえたフードホールをはじめとする飲食ショップの盛況に加え、大型雑貨ショップがビル全体の集客効果を発揮



オープン時入館風景



1階すみだフードホール前

営業展開部分	地上1階から7階
当社賃借面積	約22,857㎡

2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

2019年度上期の開発物件についてご説明します。

まず、3月、錦糸町駅前の複合ビルの商業施設部分をリノベーションした開発物件として、東京東部エリアにおける新たな事業拠点の錦糸町パルコを開業しました。すみだエリアの顧客ニーズをとらえたフードホールをはじめとする飲食ショップの盛況に加え、大型雑貨店がビル全体の集客への効果を発揮し、好調に推移しています。

また、楽天地ビルのシネマからの集客もあり、複合ビルへの出店によるシナジーも発揮し、オープン以降8月末までの入館客数は400万人を達成しました。

地元企業との合併会社が運営する沖縄県内最大級モールが開業

2019年6月、サンエー浦添西海岸パルコシティを開業



- ・マーケット随一の集積を誇るコスメ、ウォーターフロントの立地を活かした飲食、沖縄初のショップなどが出店
- ・県内ナンバーワンショッピングセンターとして順調にスタート

建物規模（商業部分）	地上3階
店舗面積	約60,000㎡

2019年8月、川崎ゼロゲートを開業

- ・低層複数ショップ型の進化したゼロゲートがオープン
- ・都市生活者のライフスタイルをサポートし、都市機能を充実させる全9ショップをラインナップ

建物規模	地上2階
延床面積	約3,300㎡



2019年10月 株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

次に、地元企業と設立した合併会社サンエーパルコが運営事業を行う「サンエー浦添西海岸パルコシティ」が6月に圧倒的なスケール感でオープンしました。マーケット随一の集積を誇るコスメや3つのゾーンからなる飲食、沖縄初出店の94ショップを中心に好稼働でスタートをきりました。県内人口の増加に加え年間旅行者数が980万人を超えるなど拡大が続く国内外観光客に向けて、さまざまな価値を提案してまいります。また、本物件は、持分法による投資利益として、利益を取り込むスキームです。

さらに、8月には低層複数ショップ型として川崎ゼロゲートが開業しました。都市生活者のライフスタイルをサポートし、都市機能を充実させるなど、バラエティあふれるショップラインナップとなっております。

PARCOの原点である「インキュベーション」「街づくり」「情報発信」が進化して登場



- ・ 2019年11月22日開業、193店舗の出店を予定
- ・ PARCO初の都市再生特別地区を活用
- ・ グローバルに発信する唯一無二の商業施設を実現
- ・ 「坂と通りの街 渋谷」のイメージを取り込んだ立体街路を創出
- ・ CO₂削減による環境への配慮や地域貢献など、ESG視点でのビルづくりに取り組む

延床面積	約64,000㎡ うち、商業エリア 約42,000㎡
建物規模	地下3階から地上19階 うち、商業エリア 地下1階から地上9階 10階一部

* 各画像はイメージです



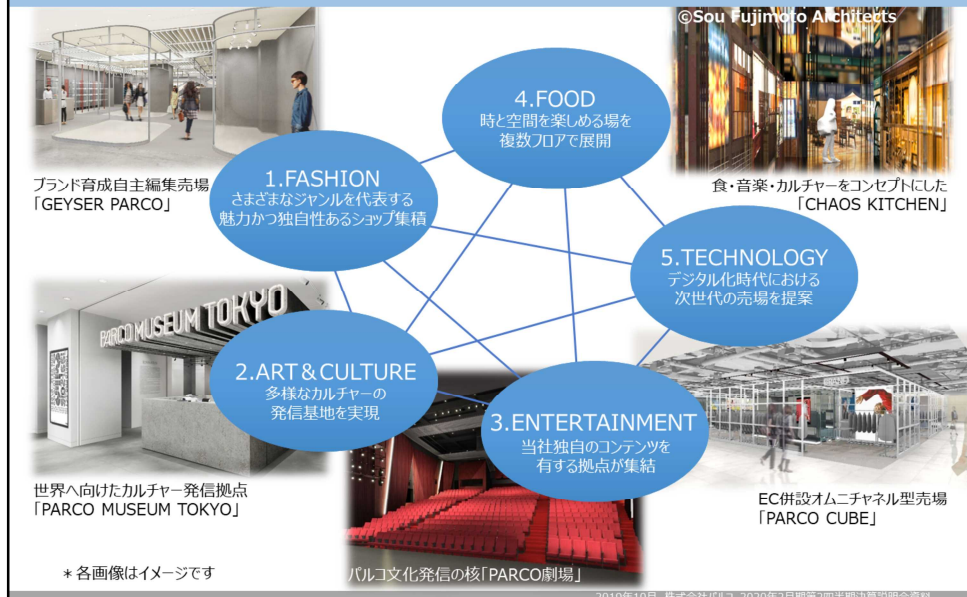
11月には、渋谷PARCOの開業を予定しています。

本物件は、2015年12月に都市再生特別地区の決定を受け、市街地再開発事業として計画を進めてきたもので、池袋PARCO開業から50周年を迎える節目の年に生まれ変わります。

これまでの商業施設の枠を超え、新進気鋭のデザイナーやクリエイターなどと新しい取り組みを行うことで、楽しさや刺激のある体験価値をグローバルに提案するビルづくりをコンセプトに掲げており、ターゲットを絞り込まず、感性で消費をする都市生活者が世界中から訪れるビルを目指しています。

また、本物件は、国土交通省より「サステナブル建築物等先導事業」（省CO₂先導型）として採択されるなど環境に配慮したビルづくりに注力したほか、歩行者へ配慮した街歩きがしやすい環境の創出や、屋外広場を活用したイベント、ファッションや演劇文化の育成と情報発信を行うことによって地域に貢献するなどESG視点でのビルづくりに取り組んでいます。

5つの構成要素をミックスし、新しい消費や価値観を創出



渋谷パルコには、193店舗の個性あふれる魅力的なショップが出店します。「ファッション」「アートアンドカルチャー」「エンタテインメント」「フード」「テクノロジー」の5つの要素をミックスし、互いの魅力を引き出しあうショップ構成となっています。

各要素の代表的な事例をご紹介します。

1 つめの要素である「ファッション」では、次世代ファッションデザイナーやブランドのインキュベーションを目的とした当社運営編集型売場「ガイザーパルコ」を展開します。

2 つめ、「アートアンドカルチャー」では、世界へ向けたカルチャーの発信を行う「パルコ ミュージアム トーキョー」のほか、ギャラリー機能をそなえた9つのショップがオープンします。

3 つめの「エンタテインメント」では、パルコの文化発信の核となる「パルコ劇場」が旧劇場の1.5倍の座席数にパワーアップして復活します。

4 つめ、「フード」では、食をビルの重要なチャームにとらえ、食・音楽・カルチャーをコンセプトにミシュランビブグルマンを獲得した名店の新業態やジビエ・昆虫料理など多種多様なジャンルの飲食店に加え、レコードやフェスグッズショップなどを含む飲食ゾーン「カオスキッチン」が登場します。

最後の要素は「テクノロジー」です。店頭販売に加え、ECを併設したオムニチャネル型売場「パルコキューブ」が出店します。

目次

2019年度第2四半期業績／2019年度業績予想

開発事業

店舗事業・エンタテインメント事業

関連事業

ここからは、パルコの店舗事業とエンタテインメント事業についてご説明いたします。

16/23

店舗事業 ① 上期実績

消費の多様性に対応したショップを積極的に導入した改装が売上と客数のアップに貢献

- ・名古屋パルコや調布パルコの30周年など基幹店舗を中心に、周年企画を実施
- ・スクラップ&ビルドを推進。3月に錦糸町パルコが開業、宇都宮パルコが5月に営業終了
- ・上期入館客数 全店計109.2%、既存店計104.3%
- ・上期改装実施面積 約15,000㎡、改装ゾーン取扱高前年同期比107.5%
※取扱高を計上しないサービスショップなどの影響を除く

<名古屋パルコ30周年>

- ・街場や地元企業と連携しキャンペーンを展開
 - ・開業日イベントの開催や地元銘菓とのコラボグッズの開発
 - ・各ショップにて30周年限定グッズや、レストランフロアにて「三十路(味噌)メニュー」を限定販売

2019年度上期実績

店舗別テナント取扱高	前年同期比	買上客数、客単価（既存店）	前年同期比
合計	104.4%	買上客数	106.4%
既存店計	101.0%	客単価	94.9%

2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

上期は、名古屋パルコ、調布パルコの30周年など節目を迎えた基幹店舗を中心に、地域への感謝を含めた周年企画やイベントを実施するなど来店促進を図りました。

また、3月に新たな事業拠点として錦糸町パルコを開業した一方、5月に宇都宮パルコが営業終了するなど、スクラップアンドビルドを推進しました。

健康・美への欲求の高まりといった消費傾向の変化を捉え、食やビューティー関連のショップを積極的に導入する改装を都市型店舗を中心に進めた結果、改装面積は約15,000㎡、改装ゾーンの取扱高前年同期比は107.5%となりました。ビルの魅力向上につながるショップの導入により、2019年度のテナント取扱高の上期実績は、既存店で101.0%、買上客数は106.4%となり、売上と客数アップに成果をあげました。

渋谷パルコとパルコ50周年を基点にストアブランドを再訴求

- ・ 渋谷パルコ開業とパルコ50周年をモチベーションとした先鋭的な取り組みを各店舗で先行実施
- ・ CRM戦略を推進し、顧客起点のビジネスモデルへシフト
- ・ 新たなインバウンド施策を渋谷パルコでスタート
- ・ 下期改装実施予定面積約24,000㎡、年間では約39,000㎡を計画

* CRM: Customer relationship management の略であり、顧客情報をもとに顧客満足度を向上させるマネジメント手法



パルコ 50周年キャンペーン広告



渋谷パルコ オープン広告第1弾 ティーザー編

2019年10月、株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

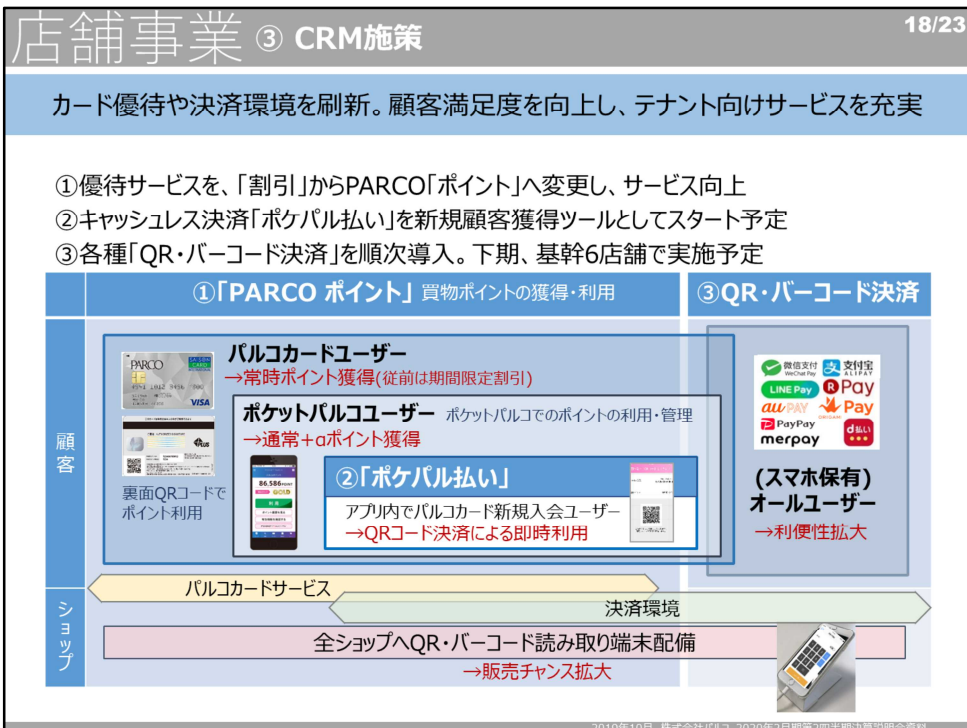
下期は、11月の渋谷パルコオープンに加えて、パルコ開店50周年の企画をパルコ全店で開催いたします。

次の50年に向けて、渋谷パルコとパルコ50周年を基点に、期待される以上のものをマーケットにお届けすべく先鋭的な取り組みを各店舗で実施するなどパルコのストアブランドを大々的に再訴求して参ります。

また、デジタル環境変化への対応によりCRM戦略を推進することで、顧客起点のビジネスモデルへとシフトするため、既存顧客へのサービス体制を刷新するほか、QR・バーコード決済への体制を整備することで、顧客の利便性を高め、ショップスタッフの販売機会を拡大するなどの施策も実行します。

そのほか、インバウンド向け施策として、アリペイをはじめ複数のプラットフォームを活用した販促企画を継続して実施するほか、多通貨レートでのカード決済や飲食ショップを除く全ショップでの免税対応を渋谷パルコでスタートする予定です。

改装計画としては、eスポーツ施設をニューカルチャー発信拠点として導入する名古屋パルコをはじめ、池袋パルコ、札幌パルコなど都市型店舗を中心に大型改装を行います。下期は、約24,000㎡、年間では約39,000㎡の改装を計画しています。



下期、より魅力的なカード優待への変更や、顧客やショップスタッフにとってストレスフリーな決済環境を整えるなど3つの施策を実行し、マーケットに対して、新しいパルコのサービス提案をまいります。

まず、ひとつめに、パルコカードの優待サービスを割引からポイントへと変更する「パルコ ポイント」をスタートします。

顧客にとっての「パルコ ポイント」のメリットは、これまでの期間限定割引と異なり365日ポイントが獲得でき、また、公式スマートフォンアプリ「ポケットパルコ」とパルコカードの情報を連携させることでプラスアルファのポイントが獲得できることです。高額利用者は、利用額に応じたランクアップ制度により、さらに高いメリットがあります。

ショップサイドには、ポイントのパルコ内利用による再来店効果が見込め、これはパルコにとっての付加価値にもなります。

2 つめに、新規に公式アプリからパルコカードを申し込んだユーザーに限定して即時利用が可能なQRコード決済も同時にスタートします。

開発を進めてきたアプリ内でのキャッシュレス決済サービスは、より安全性の高いサービスをめざし、導入延期を決定いたしました。経済産業省のガイドラインにのっとり「2段階認証」と「クレジットカード発行時の本人確認」を採用する予定です。

加えて、3 つめに、パルコにおけるショッピングの利便性を高める施策として、国内外のさまざまなアプリを使ったQR、バーコード決済が利用できるサービスを、今期中に基幹6店舗に順次導入し、顧客にもショップスタッフにもストレスフリーな決済手段を整えます。

パルコカードの優待サービスと決済環境を整備施策により、買上頻度を高め、長期間に渡ってパルコを利用していただくパルコファンを拡大する施策を推進してまいります。

エンタテインメント事業

19/23

エンタテインメント事業（パルコ）
 パルコ劇場をはじめ渋谷に複数拠点をオープンし、独自コンテンツのバラエティアップを計画

<上期実績>

- ・ 演劇事業の外部会場での公演（松尾スズキ・松たか子・瑛太ら出演「世界は一人」、ダンス・パフォーマンス「ポリティカル・マザー」など）の好調や、前期開業した映画館2拠点の本稼働などにより増収

<下期計画>

- ・ 座席数が旧劇場の約1.5倍の新生パルコ劇場が誕生
- ・ こけら落とし公演やオープニングシリーズ14作品を計画

イメージ



「PARCO劇場」

渋谷パルコにおけるパルコ劇場以外のエンタテインメント拠点

QUATTRO LABO	クアトロ ラボ	ミュージック カフェ&バー
WHITE CINE QUINTO	ホワイト シネクイント	ミニシアター
TOKYO PARADE goods & café	トウキョウパレード グッズ&カフェ	コラボレーションカフェ
GALLERY X	ギャラリー エックス	ギャラリー

パルコ劇場上演計画作品の一部



「志の輔らくご in PARCO 2020」



「ラヴ・レターズ」



「ピサロ」



「三谷幸喜の
ショー・ガール」



三谷文楽
「其礼成心中」

イメージ



ミニシアター「WHITE CINE QUINTO」

2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

パルコのエンタテインメント事業は、上期、劇場や映画の好調により増収となりました。

下期、11月に開業する渋谷パルコの中に、エンタテインメント事業の5つの拠点がオープンいたします。

まず、舞台空間を大きく拡張し、全636席、オールS席のプレミアムシアター「パルコ劇場」が誕生します。パルコ劇場ゆかりの戯曲を新たな演出とキャストで上演する企画や、これまでに共に作品を生み出してきたクリエイターやキャストとの意欲的な新作などをラインナップした、こけら落とし公演に加えてオープニングシリーズ14作品の上演を予定しています。現代日本トップクラスの作品や世界水準の舞台の創出をめざします。

また、自社運営ミニシアター「ホワイト シネクイント」では、ジャンルを問わない個性的で良質な作品を上映するほか、ファッションブランドのコレクション映像など“映画以外”の作品も積極的に上映し、カルチャー好きが満足する企画を実施します。

ライブハウス「クラブ クアトロ」がプロデュースするミュージックカフェ&バー「クアトロ ラボ」が、吉祥寺より移転オープンするほか、ギャラリーやコラボレーションカフェなど複数の拠点が渋谷パルコに誕生し、相互に連携しながら独自のコンテンツ開発を進めてまいります。

目次

2019年度第2四半期業績／2019年度業績予想

開発事業

店舗事業・エンタテインメント事業

関連事業

最後に、関連事業について、ご説明いたします。

関連事業 ① ヌーヴ・エイ

21/23

ヌーヴ・エイ (専門店事業)

上期 減収減益。店舗強化と利益構造改革を推進

<上期実績>

- ・新規開業5店舗が貢献も、前年同期に比べ店舗数が減少したほか、既存店舗が不振継続
- ・主力の時計事業はオリジナル商材にヒットがあるも苦戦。化粧品事業は前年同期の大量購入反動が影響



サンエー浦添西海岸バルコシティ「ポーカフェイス」

イメージ



メンテナンスサービスを主体とした新業態ショップ「リストック」(渋谷パルコ出店予定)

Re STOCK

Re STOCK Re STOCK Re STOCK Re STOCK

<下期計画>

- ・販売力強化や商品の見直しなどにより収益を向上
- ・Eコマースとリアルショップが一体化するオムニチャネル戦略を推進
 - 例) 9月、化粧品事業のEコマースをスタート
- ・渋谷パルコ内など収益の向上が見込める3店舗の出店を計画

2019年10月：株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

専門店事業の株式会社ヌーヴ・エイは、上期、開業店舗の貢献はあったものの、店舗数の減少に加え既存店舗の苦戦などにより減収減益となりました。

事業別営業収益では、化粧品事業は前年の大量購入反動の影響を除くと前年値を確保したものの、主力の時計事業が苦戦しました。

このような状況を踏まえ、下期は、店舗の強化と利益構造改革を推進します。

9月には化粧品事業がEコマースをスタートし新たな販売チャネルを獲得しました。前期に刷新したアプリを軸に、ヌーヴ・エイの各事業が連携してリアルショップでのサービスとEコマースが一体化するオムニチャネル戦略を進めてまいります。

また、出店は、原則、出店エリアを都市型商圈に限定し、競争優位性のある立地を計画しております。

収益性や出店店舗のエリアにおける優位性などを確立するため、70万人のメンバーズ会員を保有する強みを活かし、独自性のある商品編集力や専門性のある販売力を強化してまいります。

関連事業 ② パルコスペースシステムズ、パルコデジタルマーケティング、パルコシンガポール 22/23	
パルコスペースシステムズ（総合空間事業） 上期 減収増益。下期は工事受注増を見込む ＜上期実績＞ ・ 前年の大型案件の反動などにより減収も利益率の高い工事部門の好調により増益 ＜下期計画＞ ・ 渋谷パルコ関連工事の着実な実行などにより、外部施設の工事受注増を見込む	
パルコデジタルマーケティング（その他の事業） 上期 増収減益。複合的なデジタルサービス事業への転換を継続推進 ＜上期実績＞ ・ ストアデジタル事業・Webコンサル事業ともに外部クライアント案件が伸長し増収 ＜下期計画＞ ・ 商業施設向けWebサービス「PICTONA」と、ストアデジタルの複合サービスにより外部クライアントを拡大 ピクナ	
パルコシンガポール（ショッピングセンター事業） 日系飲食集積ゾーンは堅調も 上期 減収減益 ＜上期実績＞ ・ 前年同期のコンサルティングフィーの反動が業績に影響 ＜下期計画＞ ・ 日系飲食集積ゾーン「itadakimasu」を、好調継続により増床 イタダキマス	

2019年10月 株式会社パルコ 2020年2月期第2四半期決算説明会資料

総合空間事業のパルコスペースシステムズは、渋谷パルコ関連工事や外部商業施設などの工事受注増はあったものの前年同期にあった大型案件の反動をカバーできず減収となりましたが、利益率の高い工事部門の好調により増益を達成しました。下期も、渋谷パルコ関連工事の着実の実行などにより 外部施設の工事の受注増を見込みます。

また、専門人材を育成し事業基盤を強化することで、外部への事業拡大を推進していきます。

株式会社パルコデジタルマーケティングは、ストアデジタル事業、Webコンサル事業がともに外部クライアント案件が伸長し増収となりましたが、事業強化のための人件費、開発費増加の影響などにより減益となりました。さらに、複合的なデジタルサービス事業への転換を継続して推進いたします。

パルコシンガポールは、前年同期にあった商業施設デザインコンサルティングフィーの反動影響があり減収減益となりました。下期は、堅調に推移している日系飲食集積ゾーン「イタダキマス バイ パルコ」を増床するなど、当社グループの持つノウハウやソフトコンテンツ力を活かした取り組みを継続してアジアで推進してまいります。



本資料に記載した予想数値などは、2019年10月4日時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績などは、業況の変化などにより、記載数値と異なる場合がありますことをご了承ください。

本資料に掲載しているパース図などは、イメージであり実際とは異なる場合があります。

本資料の著作権は全て当社（当社が許諾を受けている第三者を含みます）に属しており、いかなる目的であれ、本資料を私的利用以外の目的で利用すること、および著作権法で定める私的利用の範囲を超えて、無断で複製・転載・翻案・送信などを行うことを禁じます。

パース・画像提供 株式会社竹中工務店（10・13シート 渋谷パルコ、14・19シート パルコ劇場）